



Myojo



Myojo

Myojo Gakuen Junior High School
明星学園中学校・高等学校

中学校 2018年度入学者向け



じぶんを
つくりあげろ
学校

明星学園は“自由な学校”と言われますが、
決して“ラクができる学校”という意味ではありません。
一方的に知識を教え込むという教育の場ではなく、
自発的に知性と自由を獲得することのできる学校です。
様々な個性を見守ることのできる幅の広さと厳しさを持つこの学校で、
失敗を恐れず様々な経験を通じて、
みなさんで自分自身をつくり上げてください。

Myojo

Myojo Gakuen Junior High School
明星学園中学校・高等学校

校長あいさつ



明星学園中学校・高等学校 校長
河住 貴夫

みんなと共につかみとる 自由と自主自立が、 可能性を開花させる

「明星」という学校名には、「輝く星を見つめ、その輝きに向かって伸びようとする子どもたちの希望の光」という意味が込められています。

明星学園の「自由」とは、束縛がなく好き勝手にすることではありません。自分と周りの人たちがより幸せになるために、自分の行動をよく考えることです。他人を踏みにじったり、自分中心な行いは自由ではなく、むしろ不自由な行動なのです。

そのような「自由」は、自然に手に入るものではなく、自らつかみとる必要があります。授業や課外活動を通じて、物事の本質を学び、自分自身で考える力、感じる力、

判断する力を手にすることで、自由と自主自立を手に入れます。また、そのような自分をつくり上げることが、「自由をつかみとる」ということなのです。

このような自分自身をつくり上げるには、周りの人の存在が重要になります。なぜならば、他者とともに生きることが人間の本質だからです。君たち一人ひとりの個性を開花させるためには、「ひとり」ではなく「みんな」のちからも必要なのです。

——なぜ学校で学ぶ必要があるのか。

それは、「自由と自主自立」を手に入れた、君たち一人ひとりの個性（可能性）を開花させるためです。

建学の精神

大正デモクラシーの機運の中で、「新教育」の学校として1924年に誕生しました。「新教育」とは、断片的な知識の詰め込みだけだった従来の教育から、「子どもの感性を大事にする教育」へと転換を図る教育運動です。

そのために、子どもの成長にとって大切な自然豊かな地として、池や林のある井の頭に学校を建設することにしました。

学びとは本来、主体的・探究的なものであり、それらが自己を確立していくのです。子どもたちの「なぜ、どうして」に応え、「知りたい、やりたい」という欲求や、「話したい、伝えたい」という表現を大切にすることが教育だといえます。

明星学園は「教育の内容」と「教育の方法」を一体のものとして研究を積み重ね、その成果のもとに子どもたちと向き合います。

中学校と高等学校の6年間を使って、 夢や目標の実現に向けた教育プログラムを構成しています

中学校では基礎・基本を定着させながら、疑問を見つけ、自分で考え、対話し、発見する力を育みます。そして、中学3年生の1年間は「卒業研究」に取り組み、主体性・思考力・表現力の総合化を図ります。

高校2年次には、それぞれが希望する進路へ向けて、文系/理系/実技系（体育、芸術、家政）の中からコースを選択します。各進路に応じた「自由選択授業」が多彩で、専門的なカリキュラムが充実しているのが特徴です。このような教育環境のなかで大切なのは、偏差値だけで志望校を選ぶのではなく、自分の意志で進路を決定することです。それには中学校時代にいかに多様な他者と出会い、しっかりと自分自身と向き合ってきたかが問われます。中学校3年間の学びは単に知識を詰め込むだけではなく、社会に出てからも主体的に生きる基礎となるのです。

■ 中学1年生の時間割例						
	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	美術	国語A	体育	数学	体育	音楽
2		数学	社会	理科	英語	英語
3	数学	木工・工芸	国語A	国語B	社会	数学
4	社会		理科	英語	国語A	社会
5	理科	英語	特別活動	総合英語	音楽	
6	体育	理科		国語A		

高校3年生の時間割例(文系コースの場合)						
	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	球技(体育)	政治経済	現代文	政治経済	時事英語	現代文
2						
3	コミュニケーション類	古 文	世界史	コミュニケーション類	古 文	世界史
4						
5		現代社会論考 (総合)	ホームルーム	ダンス(体育)		
6						

■の枠はコース別必修授業です。■の枠が選択授業です。
火・木・金の1・2時間目はコースの設定に関係なく選択できる「選択必修授業」。
水以外の5・6時間目は「自由選択授業（そのうち一つは総合的な学習）」。

選択授業名「選択必修授業」「自由選択授業」を併記しています。					
近代文学	理系国語	古典(漢文)	倫理	政治経済	数学Ⅲ
数学ⅠAⅡB	数学B	生化学実験	地学(地球)	読解演習	文法演習
英語表現	英会話	時事英語	素材技法	デザイン	CGデザイン
音楽鑑賞	ボーカル	キーボード	卓球	手芸	
哲学	理科研究	地学(宇宙)	文系生物基礎演習	リスニング	中国語
ボイストレーニング	アンサンブル	オペラミュージカル	染色	華道	サッカー男女
バスケットボール	バドミントン	ハンドボール	ダンス		

一人ひとりが自分と向き合う、やわらかな鍛錬主義

コンピューターや人工知能があたりまえとなるこれからの時代、社会で必要とされるのは、知識が多だけでなく、高い知性で自発的に行動できる人間です。それは、多くの経験で得た学力や知識を“てこの支点”として活用し、発展させることのできる人間です。

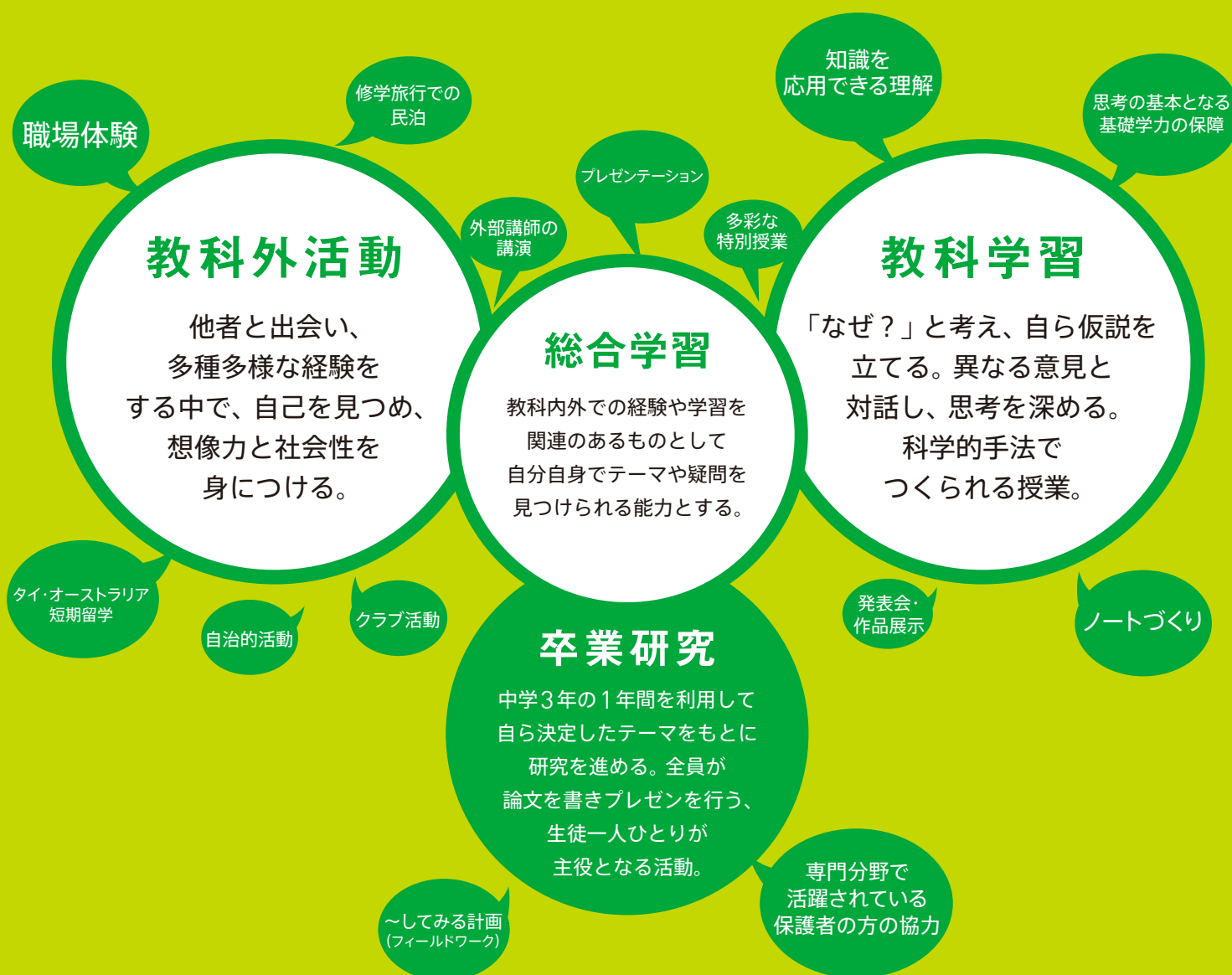
明星学園中学校・高等学校では、知性を高め、自発的な学習意欲や探究心を持つための環境が用意されています。生徒一人一人は真剣に自分と向き合い鍛錬するのです。

教科や身の回りの問題でも「なぜなのか？」と考える姿勢を大切に、教科学習はもちろん

のこと、豊富に用意された教科外の学習でも自己と向き合う多くの体験やきっかけをリンクさせてあります。

学校以外の社会との出会いや、異文化との交流などを経験することで、外の世界に対して、自分で疑問を持ち、アクセスしていく力を身につけ学習へのきっかけとします。

難しい社会問題や哲学的な問題などは、簡単に答えを出せるものではありません。しかし、深く知ろうとして、悩んだり解決しようとする経験は必ずみなさんの思考や感性を鍛え、知性を高めることになるのです。



教室から開かれる学びの空間

外部の方を招いての「特別授業」

学びは教室の中だけで完結するものではありません。各分野の専門の方に出会うことで、また社会で生き生きと活躍されている方のお話から、生徒たちは大きな刺激をもらいます。そして、深く理解しようとすればするほど、単純ではない問題の奥深さを実感します。

最近1年間で実施した特別授業

- 『戦場から見えるもの』戦場ジャーナリスト・佐藤和孝氏
- 『私のイルカ研究』京都大学大学院生(卒業生)
- 『被爆者の声を聴く』小谷孝子氏 ●『落語の授業』落語家・柳亭小痴楽氏(卒業生) ●『夢を叶える』宝塚・沙央くらま氏(卒業生)
- 『世界で今、起きていること』ダグラス・ラミス氏 ●『合唱ワークショップ』早稲田大学男声合唱団 Chor Flugelの皆さん
- 『海ってなんだろう』東海大学海洋学部教授・植原量行氏 ●『アイヌの文化を学ぶ』『ヤイレンカ』の皆さん
- 『ピアニストって何?～音楽の魅力に迫る～』ピアニスト・雨宮彩葉氏、ボーカリスト・Ayuko氏 など



柳亭小痴楽氏(卒業生)の落語の授業

保護者に支えていただいている「職場体験」「卒業研究」

中学2年の秋に行われる5日間の「職場体験」。卒業生や保護者など学校関係者の紹介で協力いただいている職場では、毎年さまざまなドラマが生まれています。生徒にとっては社会というもの、大人というものの意味を考えるきっかけとなっています。 [詳細はP.22へ](#)

また、大学の研究者などご専門をお持ちの保護者の皆さんには、「中学3年卒業研究」の相談や、論文の書き方についてのアドバイス、また大学等の研究機関とのつながりやフィールドワークのアイデアを紹介していただいています。 [詳細はP.20へ](#)



卒研ボランティアの先生との相談会

コミュニケーションの枠を広げる国際理解教育

毎年、姉妹校のあるタイとドイツから短期留学生在がやってきます。秋に高校で開催される「インターナショナルウィーク」では、様々なイベントが行われます。中学生にとっても異文化と触れ合える貴重な機会となっています。夏休みには、タイとオーストラリアへの短期留学のプログラム(希望者)も用意されており、貴重な経験をして日本に帰ってきます。 [詳細はP.23へ](#)

ただ、グローバル教育とは海外の文化との交流のみを指すわけではありません。その前提として、日本の文化の中にある多様性を自覚することの大切さが問われます。そのような意味で、中学3年の修学旅行での民泊体験は、全員に課すグローバル教育の一環とも言えます。



タイからの短期留學生との交流会



明星学園周辺の豊かな環境

100周年を迎える井の頭公園と、
三鷹・武蔵野の自然と文化。



← 高尾方面

J R 三 鷹 駅

国木田独歩の碑



今 邇

太宰治文学サロン

周辺には19か所の太宰ゆかりの場所があり、多くの太宰ファンが訪れます。文学サロンは太宰が通い、小説「十二月八日」にも登場する「伊勢元酒店」跡地にあり、貴重な資料・写真が展示されています。



今 邇

風の散歩道

三鷹駅から学校までのんびり歩くに気持ちの良い明るい散歩道。ジブリ美術館に向かう海外からの旅行者の姿も多いです。

J R 中 央 線

永尾春菜



井の頭自然文化園

荒井 空

三鷹市
山本有三記念館

野島透也



玉川上水緑道

自然豊かな緑道。放課後には自主練でランニングをする生徒の姿もあります。

中川向日葵



三鷹の森ジブリ美術館

井の頭公園
野球場

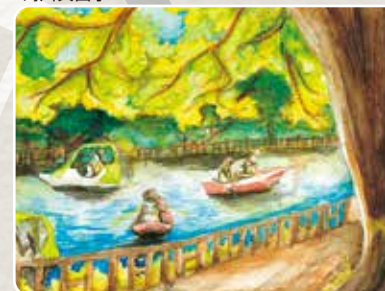
新 宿 方 面 →

J R 吉 祥 寺 駅

はな子銅像

誰からも愛され、2016年に井の頭自然文化園で69年の生涯を終えたアジアゾウ「はな子」。銅像の原型制作は、明星学園卒業生で「はな子」を描き続けた美樹家の苗田亜希さんです。

島川真由子



井の頭池

吉祥寺駅からの通学路となる七井橋からは四季折々の風景が眺められます。池の「かいぼり」には本校の生徒もボランティアとして参加しています。

井の頭通り

井の頭公園駅
井の頭線

野口雨情歌碑

雨情は「青い眼の人形」「赤い靴」「しゃぼん玉」「七つの子」などで有名な童謡詩人。明星学園の保護者でもありました。

井の頭公園
お茶の水

井の頭弁財天



小俣はる

武者小路実篤旧居跡

実篤は「友情」「お目出たき人」などを執筆した白樺派の小説家。2人の娘さんと7人のお孫さんは明星学園に通っていました。

荒井 空



明星学園小学校
明星学園中学校

新橋

橋名板の文字は明星学園の小学生と中学生が担当しました。入水した太宰を発見したのは本校の若き教員であり、まさにこの場所でした。



小俣はる

明星学園は今から約90年前の
大正13年（1924年）に創立されました。

“子どもの成長には
自然豊かな地が不可欠”として、
池や林のある井の頭の地に建設されたのです。
井の頭恩賜公園は、
2017年に100周年を迎えました。
他にも三鷹・武蔵野は古くから豊かな
自然と文化が息づく街です。

禅林寺

（太宰治・森林太郎の墓）

遺言により一切の栄誉と称号を排して「森林太郎ノ墓」とのみ刻まれた森鷗外の墓と、その向かいには彼を尊敬していた太宰の墓が建っています。6月19日の桜桃忌と7月9日の鷗外忌には多くの文学ファンが訪れます。

周辺マップ用のイラストを
中学生が描きました。



国語科

文章や情報、体験をもとに、
知る・考える・表現する

国語の能力は思考する力に繋がります。国語科では、文章を正確に読み解く力、それをもとに考える力と想像する力、得たものを文章や口頭で表現する力など、考えるためのインプットからアウトプットまでの一連の能力を、3年間で育み伸ばすことを目標にしています。そのために読解力を支える文法や語彙・論理力を伸ばしながら、詩の創作やプレゼンテーションを通じ、表現力にも磨きをかけます。

授業で使う教材は、目的に応じてもっとも適切な文章を選び、古典的な名文から最新の新書まで幅広い時代・分野を扱います。時には文庫本一冊を教材にする場合もあります。このようにまとまった分量の文章を時間をかけて読むことで、文章作品の全体を感じとる力を養い、筆者の主張や作品の描写を深く味わい理解できるようになります。

授業内では「なぜそのような解釈になるのか」を生徒どうしが議論する場を多く用意して、それまでに学んだ知識をベースに「意見を述べる・質問する・答える」という協同的な学習を繰り返し、教わるだけではなく「自ら学ぶ力」を育て、知識を深めていきます。

課外行事や卒業研究活動と連携し、自らの体験や考えをまとめ、プレゼンテーションする技術も身につけます。

高等学校の授業

■ 現代文 ■ 古文 ■ 漢文 ■ 近代文学

現代文分野・古典分野ともに、現実に生きた人間の表現と思考を読み解くことで、現在を生きるための想像力を養い自分の言葉を紡ぐ力を身につけることを目標にしています。高校3年次には応用発展的に学びたい生徒を対象とした選択授業も設置しています。

社会科

現代の社会を総合的にとらえ
未来を見つめる眼をやしなう

現実社会では多くの問題や対立があります。今後は世界との距離も近くなり、異文化との接点も増えていくでしょう。そのような情勢の中で社会科の目標は、生徒が基礎的な知識を使いながら現実社会を見つめ、自分の考えや視点を獲得できるようになることです。

授業では、問題を教員が教えるだけではなく、生徒たちどうしのディスカッションを行います。歴史・経済・政治・文化・民族・宗教などの様々な観点から考え、自分の意見を発表しあうことで、問題に対する立場の違いや多方面の意見を知り、それによって対立が生じることも理解します。

この過程は生徒が自分の考えを持つために重要で、問題に対しての深い認識と、コミュニケーション能力を獲得します。これが明星学園の授業という場なのです。

教室や教科書だけで学ぶのではなく、野外活動、フィールドワーク、博物館や図書室を利用した学習、民泊体験など学校以外の社会に触れる機会も多く用意されています。それらのことを通して学んだ知識と現実社会をつなげて考えられるようになります。

授業成果を学内行事などで披露する機会も多く、レポートなどの作成を通じて論理的な思考を身につけ、発表することによって自己を表現する力も育みます。

高等学校の授業

■ 現代社会 ■ 世界史 ■ 日本史 ■ 政治経済
■ 倫理 ■ 哲学

高校1年の「現代社会」「世界史（近現代）」、高校2年の「日本史（近現代）」を必修授業の中で学んだ上で、それらをさらに発展させていくために、多様な選択授業を設置しています。授業は討論や研究発表の機会が多くある「生徒参加型授業」、講義中心の「受験対応型授業」と、内容や目的に沿った形式で行われます。



数 学 科

正しい答えを模索する中で
本質的な理解を身につける

小学校の「算数」から、中学校の「数学」になる際に、「数学嫌い」が大量に生み出されるとよく言われています。その原因は、算数から数学へ移行する段階に、大きなギャップがあるからです。

簡単に言うと、「算数」の世界では、身の周りにある具体的なものに置き換えられていましたが、「数学」では記号を扱って、抽象的な答えを考えなければならないからです。いきなり抽象的な概念の獲得だけを目的としてどんどん進めようと、数学を嫌いになるのも無理はありません。

生徒たちが現実感を損なわずに、抽象的な記号操作の世界に乗り換えるためには、必ずしも教科書どおりの順番で進めるのではなく、算数の延長線上にある、生徒にとって想像しやすいことから取りかかる必要があります。

数学は、早くスマートな答えを出すことだけが目的ではなく、時間をかけて「どうしてなのか？」という疑問を持ち、理解しながら進めていくことが大切です。そのために生徒それぞれが仮説を立て、議論して解答を求めていく中で、数学の本質的な理解を得て、ひも解くことの面白さを知ることにつながるのです。

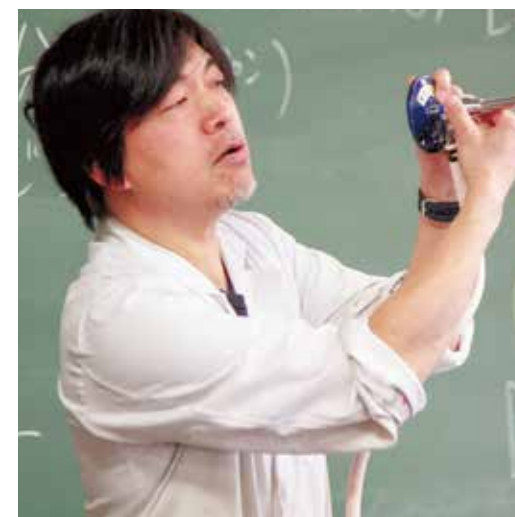
そのために、生徒の「なぜ?」「どうして?」を大切に、生徒が主体的に学習に取り組める授業を展開しています。

高等学校の授業

■ 数学I ■ 数学II ■ 数学A ■ 数学B
■ 数学III ■ 数学演習 ■ 数学 IA II B

生徒自身が積極的に授業に参加していくためには、「わかる授業」であることが大切です。高校1年生・2年生の必修科目の授業では、習熟度別、少人数での授業を行っています。生徒のもつ力をそれぞれの場で発揮できる雰囲気や積極的な発言を大事にしながら授業を進めています。

授業の中で理解できなかった問題は早めに解決をして、分からないまま先に進む事のないようにサポートしています。自宅学習を重視して課題を多く課したり、放課後には自主的な参加のもとで補習を行っています。



理 科

自然を深く見つめることから
自然現象を理解していく

理科の授業とは、生徒たちが実際に体験する自然科学のしくみを理解するための共同研究です。

生徒たちの身の回りの現象……、例えば「植物が育つ」「光が届く」「風が吹く」「物が見える」といった現象も、それぞれが法則によって成り立っています。授業内ではまず、「なぜそうなっているのか?」という仮説を、生徒一人ひとりが組み立てることから始まります。

生徒どうしの議論のあと、実験によって事実を理解しますが、単に教え込まれるのではなく、自分たちで答えを探る姿勢は、あらゆる自然現象を深く見つめ直し、理解することにつながります。

重要なのは個人ではなく共同で研究することです。生徒たちは様々な仮説を発表します。自分の意見を正確に伝えようとすることや、異なる意見を理解しようとすることは、大人でも難しいことですが、生徒は言葉の表現を変えたり、黒板に図を描いたりしながら工夫し、意見を伝えようと努力します。そして、時には意見を変更したりしながら、クラスという集団で問題を解決するのです。

教室の中には多様な考えが存在していて、それぞれの考えが尊重されなければならないことも学びます。このような経験は、集団の中で他人を理解し、社会という集団を形成していく能力に繋がっていくと考えています。

高等学校の授業

■ 生物 ■ 物理 ■ 化学 ■ 地学
■ 理科研究 ■ 生化学実験

実験やフィールドワークなどの「体験（体感）」できる授業を多く用意して、それらが「生きた知識」となるように展開しています。



英語科

「気づき」を活かして
「分かる」から「使える」へ導く

英語を覚えるだけでなく、使える英語を身につけるために「気づく → 教わる → 分かる → 習熟する → できる・使える」という5段階の学習ステップを取り入れています。ただ英語を聞くだけ・使うだけで、英語を習得するには中学校の授業時間は充分ではありません。また、文法だけを勉強しても、実際に使える英語力には繋がりません。

最初のステップでは、学習テーマとなる表現や文法を教員が口頭で話し聞かせることから始めます。生徒たちはまず感覚的に何が言われているかを少しずつ理解し、さらに会話や文章を通してより深く触れていくと、生徒自身がテーマに「気づく」ことになります。

さらに教員から「教わる」ことを通じて「分かる」というステップまで進みます。英語を単純に覚えるのではなく、気づいてから学習することによって、うわべだけではない深い理解につながります。

この流れから「習熟する」というステップに到達すると、高い英語力を得ることできるのです。「できる・使える」というステップの幅を大きく広げるために、「話す・聞く・読む・書く」という実践的な要素を取り入れています。

日本人教員とネイティブ教員が行う授業では、特に「話す・聞く」という点を実践的に学習します。

各学年で英語検定の取得目標を立て、中学校卒業までに準2級以上を目指す生徒も多くいます。

高等学校の授業

- コミュニケーション英語 I・II・III
- 英語表現 I・II・III
- 読解演習 I・II
- 文法演習 I・II
- 英会話
- リスニング
- 時事英語
- 中国語
- ドイツ語

※授業は年度によって変更があります

音楽科

表現する喜びを実感
合唱からオペラまで多彩な学び

音楽科では、合唱を中心とした授業を取り入れています。音楽の世界はとても広くて、身近なものから、あまり親しみのないものまで多くの種類がありますが、授業のなかでは、広く浅く学ぶのではなく、合唱という一つの分野を深く追求していきます。それにより、生徒たちは“音楽を使って心を豊かに表現する”という音楽の本質に触れることができるのです。

合唱とは、みんなの声を使って演奏するというシンプルなもののように思われますが、メロディとハーモニーと歌詞を表現する、奥深いものです。一つのメロディを歌うだけでなく、自分たちの声によるハーモニーを感じながら、歌詞の世界観を表現することの楽しさを知り、力を合わせることで表現の幅が広がる喜びを体感することができます。

さらに、キーボードを使った学習では、楽譜や音楽の構造をより深く知ることができます。それらは合唱の力をさらに高めることにつながります。情緒的に感じる部分と論理的に考える部分を合せることは、あらゆる場面において大切なことです。

また、一つひとつの曲を何度も練習する過程で、感じる力、コミュニケーションする力、表現する力などを育み、みんなと協力して作品をつくり上げ、演奏会などで発表し、大きな感動を分かち合います。

高等学校の授業

- 歌唱
- ソルフェージュ
- 音楽鑑賞
- アンサンブル
- オペラ・ミュージカル
- ボイストレーニング
- 音楽史
- キーボード
- ボーカル

高等学校では「アンサンブル」や「オペラ・ミュージカル」など、より専門的な授業へと進みます。さらに、“聴く”ことを中心とした「音楽史」や「音楽鑑賞」によって、各ジャンルのルーツや歴史も学べます。音楽祭や文化祭などの発表する場面も多く用意されています。

※授業は年度によって変更があります



13

美術科

対象をじっくりと観察し、発見し、
自分を通して表現していく

美術の授業では「描くことは知ることに通じる」という考えから、ただ描くだけではなく、観察や発見を通じて自らの視点や切り口を持つことを大切にしています。

ゆったりと設定された制作期間のなかで、「失敗したかも」や「思い通りに描けた」という気持ちの揺れや試行錯誤を経験しながら、作品づくりを通じて自信と自由を獲得していきます。

ピンを描く課題では、ピンの口や底が楕円に見えることを発見し、立体的に描くことを経験します。夜の場面を描く課題では、実際に夜の建物の見え方を意識して観察することで、暗くて深みのある色づくりへとつなげます。

3年間の授業を通して「見て描く」「場面を演出する」「模様・デザイン」の領域の課題を様々な形で繰り返します。課題のたびに新たな発見をして、それまで学習したことプラスして描写力や表現力を高めていきます。

決められた条件の中での作品づくりは、自らが描きたい絵を自由に表現するために必要なステップです。

卒業制作では、これまでの発見や経験を総動員して自らの視点で自由に「都市」というテーマで制作します。自分たちが暮らす都市を生徒一人ひとりの視点で見つめた等身大の素直な作品が生み出されます。

高等学校の授業

- 絵画 ■ デザイン ■ CGデザイン
- 立体表現 ■ 表現演習 ■ 素材技法
- 素描 ■ 美術史 ■ 作品鑑賞

高等学校では、中学校での課題をより発展させて、絵画・デザイン以外に、美術館や画廊で作品と出会う「作品鑑賞」、視点と表現を深く掘り下げる「表現演習」など、豊かな美術の授業カリキュラムが用意されています。



木工・工芸科は中学校のみの教科です

木工・工芸科

自分自身の手でつくり、
ものづくりの喜びと価値を知る

「木工」では様々な道具を使って原木製材から道具や家具などの製作を行います。そのために図面を書いたり、安全に道具を使うために機械の構造なども学習していきます。

小さな作品から始めて、最終的にはグループによる共同作業で製作するようになります。2年次には、無垢材から木の器をつくり、3年次の1年間を通して、グループごとに家具づくりを行います。仲間と協力、分担してデザインから製作までを行い、各生徒がすべての作業に参加します。工夫と努力を通じて、喜びを得られる授業内容です。

「工芸」は、織りと染めを自らの手で行います。現代では機械化・量産化によって、物の価値を軽視してしまう傾向もありますが、授業を通じて本質を見極める力や、物を大切にすることも学びます。

最初に、自分たちで織り機を製作することから始めて、糸を一本一本丁寧に積み重ね形にしていきます。どの作業も集中と根気が必要となりますが、自分の表現を達成するために強い意志をもって取り組みます。

時にはやり直すこともあります。克服しながらつくり上げる喜びを育みます。



木工(3年)卒業制作
卒業式には木工、工芸、美術の全ての作品が会場に展示されます。



保健体育科

一人ひとり違った役割の中で、
スポーツと身体のしくみを学ぶ

体育の授業では、やみくもに身体を動かすのではなく、スポーツのルールについて学んだり、身体のしくみを理解しながら、目的をもって身体を動かすことを学習します。

授業の多くはグループでの学習が中心となります。自分の身体をつくり変えていくことが一番難しいことですが、仲間の動きを通して学び、自らの身体の動かし方を変えていくことが大きな学びになります。

スポーツが苦手な生徒、得意な生徒、様々な生徒たちがいますが、集団の中でそれぞれの特性と自分の役割を理解して、テーマを持って練習しながら、目標に対して生徒どうしが影響を与えあい、一人ひとりが成長していく授業を展開していきます。

保健の授業では、生命のはじまりから、ヒトが生まれ育っていく過程や、人間の身体のしくみ・健康について学びます。

生徒自身の成長や発達にも大きく関わってくる、心と身体の関係性を学習しながら、私たちを取り巻く環境や社会が人間にどのような影響を与えるのか、他教科とも連携をとりながら多角的に学びを深めていきます。



高等学校の授業

- 保健 ■ ハンドボール ■ バレーボール
- サッカー ■ ダンス ■ 器械体操 ■ 陸上
- バドミントン ■ バスケットボール ■ 卓球

※授業は年度によって変更があります

生活科は高等学校のみの教科です

生活科

暮らしを明るく主体的なものにするために

「豊かな暮らし」とは、どのようなものでしょうか？私たちが暮らしを創造する上で、現代をより良く生き、健康に生きていくために、「衣食住」はあらゆる活動の基盤となるものです。

生活科の授業では、私たちの身近な問題に関心を持ち、実践的に捉え、基礎となる知識を学び、生活を営む力を養っていきます。現代の社会の中で自立した消費者を目指し、社会が子どもを育てる視点で課題に取り組みます。

調理Ⅰ・Ⅱ、服飾デザインⅠ・Ⅱ、住居、調理Ⅰ・Ⅱ、華道、染色などの授業では、生徒が自立した生活者になるための基礎的な知識や技術を習得していきます。

情報科は高等学校のみの教科です

情報科

情報を読み解く力を身につける

私たちは毎日、様々なメディアから発信される多くの情報にさらされています。新聞やテレビなどに加えて、インターネットが新しいメディアとして登場し、情報量は個人の処理能力をはるかに超えてしまいました。

「情報科」では、氾濫する情報の中から必要な情報を引き出し、活用していくための手段と知識を学習します。

具体的には、コンピュータなどの機器の操作や文書の書き方、Webページの作成方法、迷惑メールや著作権といった“ネット社会のモラル”に関することなど、そして情報が社会に与える影響についても考えていきます。



※授業は年度によって変更があります

17

16

さまざまな意見に出会える教室で 主体的な学びをめざす

明星学園の授業は、“自分の頭で考えること”“自分の心で感じること”からスタートします。授業内でテーマとして提示された“課題”に対して、生徒たちは「なぜだろう?」「何が正しいのか?」という疑問を持ちます。そしてその疑問を解決するためにそれぞれが自分で考え、「こうじゃないだろうか?」という仮説をたてます。

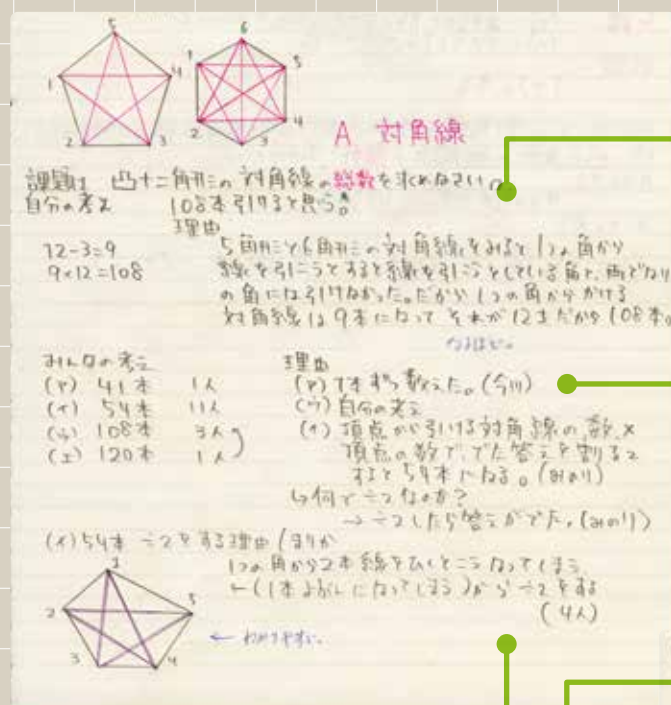
教室にはたくさんの仮説が生まれますが、正しい意見も、間違えた意見も、クラスが一つの課題を解決していくため

にはどちらも大切な意見です。違う意見があるからこそ、みんなで本当のことを探ろうとする“主体的な学び”が生まれるのです。同時に“多様な考えがあること”“間違いを恐れないこと”も学んでいきます。

単純に知識や公式を提示するのではなく、みんなの意見を交流させながら結論を探ることによって、知識以外に主体的な学び（教養）、他者に伝える力（表現）、他者の考えを大切にする姿勢（社会性）を学んでいきます。

授業の流れを記録する、明星学園のノートづくり【数学での例】

明星学園における「ノートづくり」は、ただ板書を書き写すのではなく、授業の流れや経過も丁寧に記載することで、単純な記憶ではない、深い理解へと発展させます。

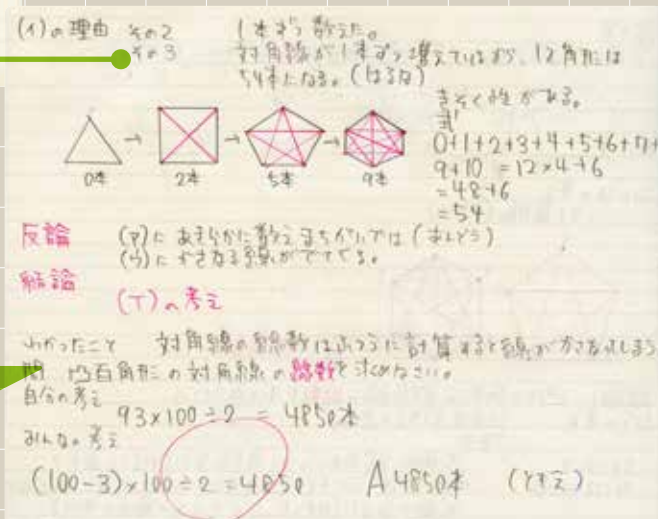


提示された課題やテーマの答えを暗記するのではなく、まず自分で「なぜ?」と考えてみます。

様々な意見や予想が生まれます。それらを聞きながら、自分の思考も深化させてみます。

他者の意見を聞いたり、自分の意見を発表するなかで、本当の答えを探っていきます。

本当の教養を育てるために、単純に課題やテーマの答えを提示するのではなく、主体的に学びとる姿勢を大切に授業を進めます。自分と他者の意見を交流させながら、本当の答えを探ることによって、社会性や自己表現の方法なども学んでいきます。



工芸（卒業制作）



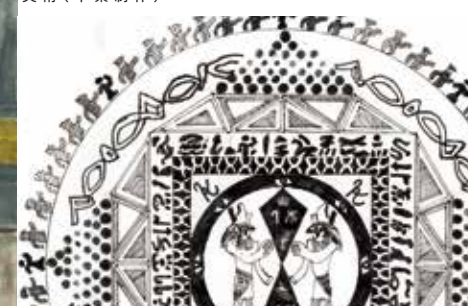
工芸（卒業制作）



美術（卒業制作）



美術（卒業制作）



美術



木工（卒業制作）



木工（卒業制作）

自分で選んだ研究テーマを追求し、
自己表現力を磨く。

自身による
テーマの模索

テーマと
担当教師の決定

調べ学習、実験、
インタビューなどを
通し、考察を深める

論文完成

論文をもとに
スライドを作成し
プレゼンテーションする

自分自身の視点を確立して、時間をかけてひとつのテーマを掘り下げていく

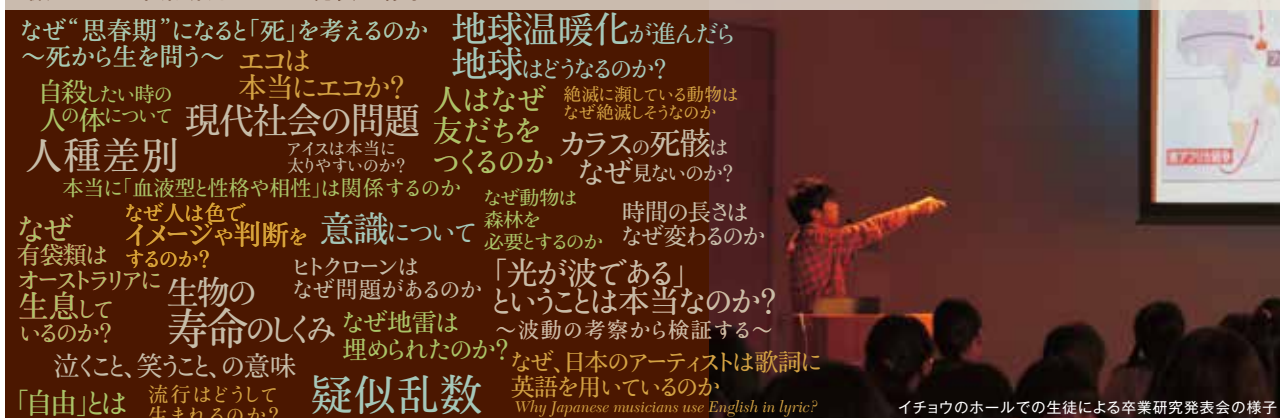
中学3年生が約1年間かけて、自らが興味・関心のあるテーマを決定し、自分なりの考察を文章にまとめる「卒業研究」。1996年度から続いているこの取り組みは、自己と向き合う機会をもたせるという意味で、重要な役割を果たしています。

そもその始まりは、教師が主導となる“授業”という受身の場以外で、自分自身の興味や内面を表現できる人間になってほしいという意図でした。大切なのは、テーマを自分で見つけること。まずは興味があることを挙げてみることからテーマ選びはスタートします。最終的に1人の担当教師を決め、相談を重ねながら具体的なテーマを決定します。

調べ学習に加え、実験やインタビューなどを行い、実証的に仮説を検証していきます。不特定多数の方に興味をもって読んでもらえるかを考えながら、自分の考えを論理的にまとめ、原稿を完成させます。卒業研究発表会では、全員が完成した卒業研究論文についてスライドを使ってプレゼンテーションをします。

得意分野の研究に表情が生き生きしてくる生徒、そんな生徒に影響を受けるクラスメイトたち。相互に影響を与え合いながら、集団として成長していきます。

最近の主な卒業研究テーマと発表の様子



イチョウのホールでの生徒による卒業研究発表会の様子



八ヶ岳登山（1年生）

1年生全員が、赤岳鉱泉小屋（標高2300m地点）に2泊し、3000m級の頂上を目指します。自分の足だけが頼りです。しかし、ペースを守りながら仲間と歩いているうちに、体力勝負ではないことに気づきます。自分と向き合うことの厳しさ、励ましあい頂上に着いた時の喜びを共有できる仲間の大切さ。日常から離れた空間だからこそ出会える経験があります。身体や精神の可能性を広げ、協調性や主体性を学ぶ絶好の機会ともなっています。



沖縄修学旅行（3年生）

他者と出会うことで人は成長します。3年次の4泊5日の修学旅行にはさまざまな「出会い」が用意されています。琉球文化や歴史との出会い、美しくも厳しい自然、そしてそれらと共存していく人々の知恵、また伊江島の民家に泊めていただいていた2泊3日の生活は、この修学旅行のハイライトでもあります。都会での日常生活に戻った時、一回り大きくなった自分に出会えます。

※年度により、行き先が変更になる場合があります。

合唱コンクール／マラソン大会／運動会



社会の一端を垣間見る中から 自分と自分の将来を具体的に思い描く

教室の中で勉強していることが、どのように社会とつながっているのか。保護者や卒業生、地域の方に協力していただき、2年次に「職場体験」を実施します。

11月の1週間、学習の場を日常の学校から地域社会に移し、責任とプライドを持って働いている大人と出会うことを大切にしています。この職場体験は、生徒たちが社会

の一端をのぞき、自分自身を見つめるきっかけとなることを目的としているのです。

生徒の受け入れ先として協力してくださる職場は、卒業生や保護者の方々の職場であったり、明星学園をよく知る方からご紹介をいただいた場所です。面白さや楽しさだけではなく、厳しくも密度の濃い1週間になるはずですよ。

2年生の職場体験の流れ・・・ ◎年度によって変更になる場合があります。

1 ◎職場体験ガイダンス ◎「仕事」についての学習 ◎講演会

事前に開かれる講演会や、卒業生に話を聞くことなどを通じて、「働くということ」について学習していきます。

2 ◎マナーの学習 ◎自己紹介書の作成 ◎体験職場へ訪問

体験職場を決定してからは「マナーの学習」や「自己紹介書の作成」などの事前準備を進めます。

3 ◎職場体験の本番

保育園・幼稚園・養護学校・介護老人保健施設・病院・出版社・印刷会社・旅行会社・パン屋・農園・塗装会社・レストラン・助産院・ホテル・動物病院・植木屋・牧場・市場・ダイビングショップなど

4 ◎レポートの作成と 体験報告会の実施

職場体験レポートの作成、スライドを使つての発表、お世話になった職場へお礼状の作成などをします。全員のレポートは1冊の冊子にまとめます。



語学や異文化への興味を 自分自身のちからに変えていく



※研修先・留学先は年度によって変更になる場合があります。

「人との関わりを通じて相手を理解すること」。その先にあるのは自分自身を深く知ること、自分たちをとり巻く社会や環境を知ることにもつながります。明星学園ではそのようなことを文化や国境を越えて感じ取ることができる、さまざまなプログラムを用意しています。総合英語の授業やインターナショナルウィークなどで、異文化と出会い、国際交流を行います。

また、中学校では夏休みを利用した2週間のオーストラ

リア語学研修・10日間のタイ短期留学※を行っています。帰国した生徒たちは、「相手をさらに知りたい」「もっと自分を伝えたい」という強い思いから、英語や異文化について学ぶ意欲をより一層高め、積極的に学んでいます。高等学校になると、さらに多くの留学プログラムが用意されています。

生徒たちが自発的に学びへと向かうための多くのきっかけが、明星学園での生活の中にちりばめてあるのです。

校内で行われる国際交流



6日間にわたって行われるインターナショナル・ウィークは、タイやドイツなどから短期留学生を招き、授業の見学や参加、クラブ体験、日本文化体験を通じ在校生たちと交流をはかります。スピーチ・コンテストでは、留学生と在校生が熱弁を競い合います。年間を通して、東京に住むアジア、アフリカ、ヨーロッパなど様々な国からの社会人や留学生を講師に招き、自国文化を紹介する「特別授業」などを行います。

留学制度について

明星学園独自の制度を活用して留学する「特別留学制度」では、一年間の長期留学プログラムとして、タイのホアヒン高等学校とドイツのメンデルスゾーン・オーバーシュレ高等学校の2校への交換留学を用意しています。また、外部の留学斡旋団体や、個人で留学をする「一般留学制度」を利用した場合、留学先で取得した単位は、世界中のどこの国の学校でも、明星学園に復学した段階で卒業単位の一部として認定されます。

中学校

- 野球部 ■男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部 ■テニス部
- バドミントン部 ■美術部 ■文芸部
- 漫画研究会 ■囲碁将棋部 ■木工部
- 百人一首部 ■書道部 ■鉄道研究会
- 演劇部 ■山歩き部 ■合唱同好会

中高合同

- 陸上部 ■サッカー部 ■体操部
- 剣道部 ■弓道部 ■和太鼓部
- アンサンブル部 ■卓球部 ■サンバ部

高等学校

- 野球部 ■女子バスケットボール部
- 男子バスケットボール部
- バドミントン部 ■ハンドボール部
- 女子バレーボール部 ■美術部
- 音楽部 ■理科部 ■ファッション部
- 写真部 ■ダンス部 ■演劇部
- 国際交流部 ■料理研究部
- 漫画研究部 ■鉄道研究部



注目のクラブ紹介 アンサンブル部（中高合同）

オーケストラ演奏で 仲間と奏でる喜びを

天野 茜・新坂 彩子 アンサンブル部顧問

アンサンブル部は、創部36年のクラブです。中学1年生から高校2年生まで、総勢60名で活動しています。部の特徴は、オーケストラ演奏ができること。オーケストラと吹奏楽の違いはわかりますか？ 管打楽器のみの吹奏楽と違い、オーケストラにはヴァイオリンやチェロなどの弦楽器パートがあります。

オーケストラができる学校はあまりありません。特に弦楽器というと「幼少期から始めなくてはいけない」と思いがちですが、ほとんどの部員が中学1年生で初めて楽器を手にします。

先輩やトレーナーに教わりながらメキメキと上達し、高校生になる頃には、演奏会で堂々とソロを披露するまでに成長します。

オーケストラだけではなく管楽や弦楽など、さまざまな形で音楽を楽しむこともできます。2013年にはしおかぜ総文祭に管弦楽部門都代表として出場。毎年、全国選抜高等学校オーケストラフェスタにも出場しています。音楽好きな人、大勢で何かを創るのが好きな人はぜひアンサンブル部へ！



第48回定期演奏会（三鷹市芸術文化センター・風のホール）



様々な校内イベントが行われる「いちようホール」での中高合同練習

注目のクラブ紹介 和太鼓部（中高合同）

和太鼓を通じて暖かみのある交流を 教室だけでは学べない大切な経験

奥西 克昌 和太鼓部顧問

和太鼓部は中学生と高校生が一緒に活動しているクラブです。現在、中学生・高校生合わせて約50名で活動しています。ほとんどの練習が高校キャンパスで行われます。

和太鼓部では、太鼓を叩くだけでなく体力作りも大切にしています。体を鍛えながら自分をみつめ、仲間と気を合わせて1つの音を叩き出します。

中学生は高校生ほど演奏の機会はありませんが、入学式・卒業式など校内行事での演奏だけでなく、小学校公演やイベント出演など学園外での舞台もあります。小さな子どもたちからお年寄りまで、誰にも喜んでいただける演奏ができるように、一生懸命練習に取り組んでいます。

高校生部員は、この10年間に7度東京都の代表として全国大会に出場し、2010年の宮崎大会と2014年の茨城大会で優良賞（ベスト4相当）、そして2015年滋賀大会では最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞し、国立劇場大ホールで行われた優秀校公演にも出演させていただきました。



NPOと国連が開催した“スタンドアップテイクアクション”記念イベントへ出演しました。



成田太鼓祭での演奏

注目のクラブ紹介 弓道部（中高合同）

弓道を通じて、自分と向き合い 礼節と共同性を身につけます

平野 康弘 弓道部顧問

今年で創部12周年を迎える明星学園弓道部。初めは弓道場もなく、わらを束ねた“巻き藁”に矢を射る練習だけをして、土曜日ごとに公共の弓道場で練習する日々でした。同好会からのスタートでしたが、地道な練習を続け、中・高共に東京都大会に出場。数々の賞を勝ち取るまでに成長したことが認められ、2016年春、ついに新弓道場が完成しました。

初心者也大歓迎です。2015年春に高校を卒業した鈴木桃さんは、まったくの初心者で入部し、中学3年生の時に全国4位に入賞。高校で国体選手に選ばれ、高校3年生の時に国体東京チームのキャプテンをつとめました。また射形（矢を射る姿）の美しさを認められ、『技能優秀賞』も受賞しています。

『正しい射形で、平常心を保つ』という伝統があり、先輩から後輩に技術と精神が受け継がれています。2015年の1月、中学3年生が都大会で3位をとり、3月には東京都遠の大会で、チームが男女そろって優勝を勝ち取りました。また、2017年3月には、女子チームが東京都遠の大会で3位に入賞しました。



2015年3月 東京都中学校遠の大会で、男子団体・女子団体それぞれ優勝しました



2017年3月 東京都中学校遠の大会 女子団体3位入賞

中 春の親睦会



学年ごとに大きな広場のある公園（神代植物公園・小金井公園・昭和記念公園など）に出かけます。クラス委員を中心に学年全体で遊べるものを考え、身体を動かすことで一気に友だちどうしの距離が縮まります。

高 体育祭



実行委員が中心となり企画運営される、クラス対抗の行事です。クラスごとのTシャツを着て応援に競技に汗を流します。

中 修学旅行

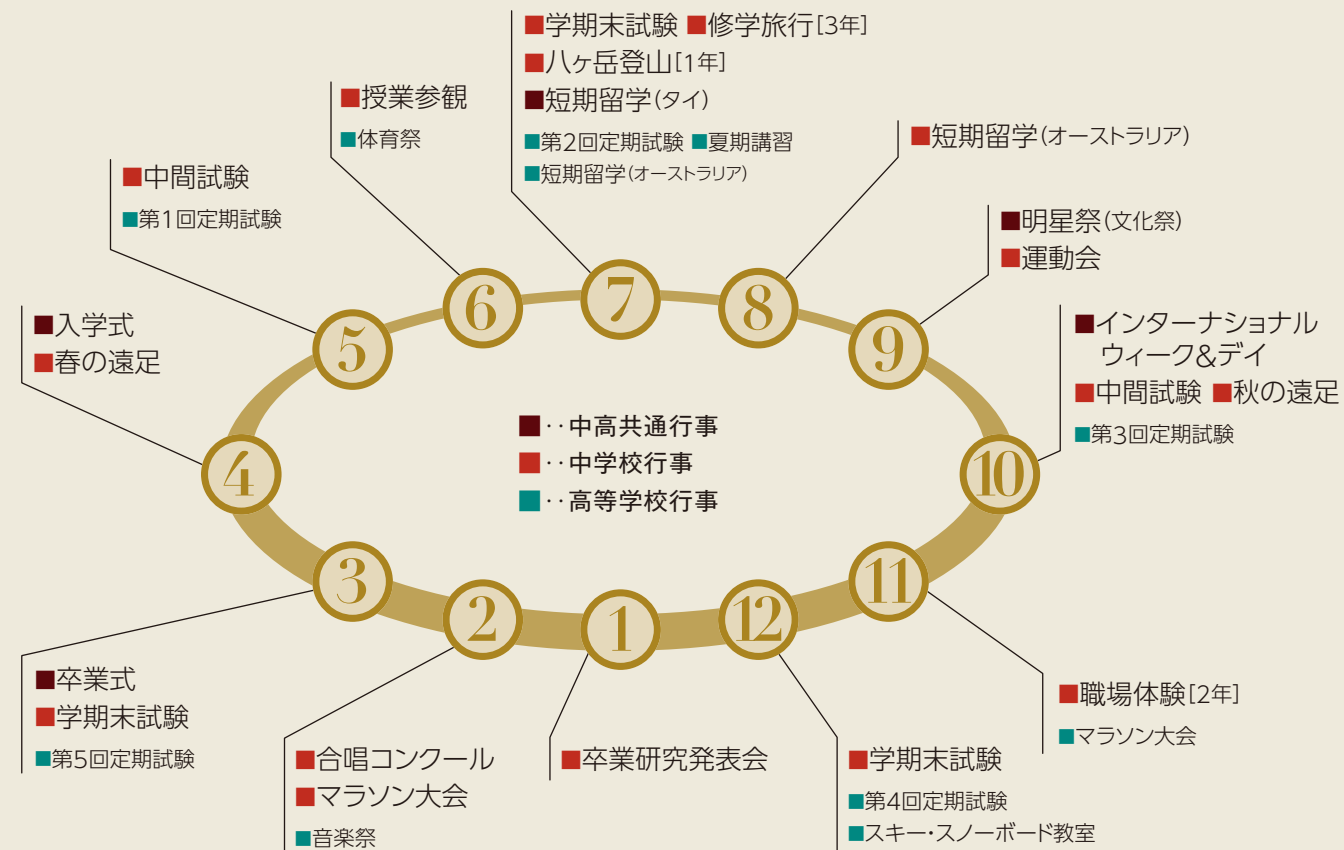


中学3年の夏に、沖縄の民家へ宿泊し、仕事をお手伝いさせていただいたり、沖縄戦の歴史や琉球伝統文化について多くを学びます。

中高 短期留学



英語学習を目的に現地校で学び、ホームステイをするオーストラリア留学制度や、事前学習でタイ語を学び、文化交流を主とする、タイへの留学制度などがあります。



中 合唱コンクール



音楽の授業で学んだ聴き合う力、パートのリーダーを中心とした練習は、しだいに自分たち自身の力で合唱を作り上げて行く力につながっていきます。2月には大きなホールを舞台にクラス対抗で歌声を響かせます。

中高 インターナショナルウィーク



海外の提携校から多くの留学生が訪れ、在校生・留学生が共に交流を深めていきます。インターナショナルデイには、留学生の討論会やパフォーマンスが行われます。

中高 明星祭(文化祭)



春から準備を重ねて開かれる、学園が最も華やぐ2日間です。クラス企画を中心に美術作品や授業の展示、クラブや有志グループによるイベントなど盛りだくさんです。中庭には大パネルが出現します。

小中 運動会 (小中合同)



運動会は、小学校と中学校の合同で催される行事です。3年生は、その企画から運営まで中心になって働きます。準備期間になると、応援練習や入退場門作りに励む生徒の姿を目にすることができます。

過 去 3 年 間 の 現 役 合 格 実 績

国公立大学

- お茶の水女子大学
- 東京海洋大学
- 国際教養大学
- 東京学芸大学
- 首都大学東京
- 東京藝術大学
- 信州大学
- 東北大学
- 都留文科大学
- 防衛大学校
- 電気通信大学

卒業生の進路状況 2017年4月

四年制大学〔大学校含む〕	▶▶▶	117名
短期大学	▶▶▶	0名
専門学校	▶▶▶	18名
留学	▶▶▶	3名
浪人・その他	▶▶▶	50名

卒業生合計188名

私立大学

- | | | | | |
|---------|---------|---------|-------------|-----------|
| ■早稲田大学 | ■東京理科大学 | ■駒澤大学 | ■北里大学 | ■多摩美術大学 |
| ■慶応大学 | ■成蹊大学 | ■専修大学 | ■杏林大学 | ■武蔵野美術大学 |
| ■上智大学 | ■成城大学 | ■東海大学 | ■日本獣医生命科学大学 | ■東京造形大学 |
| ■明治大学 | ■明治学院大学 | ■芝浦工業大学 | ■麻布大学 | ■女子美術大学 |
| ■青山学院大学 | ■武蔵大学 | ■工学院大学 | ■順天堂大学 | ■日本女子大学 |
| ■立教大学 | ■獨協大学 | ■東京経済大学 | ■日本体育大学 | ■東京女子大学 |
| ■中央大学 | ■國學院大学 | ■東京電機大学 | ■国立音楽大学 | ■白百合女子大学 |
| ■法政大学 | ■日本大学 | ■東京農業大学 | ■桐朋学園大学 | ■フェリス学院大学 |
| ■学習院大学 | ■東洋大学 | ■東京薬科大学 | ■洗足学園音楽大学 | ■立命館大学 他 |

FAQ よくある質問と回答

授業の特徴や
教育方法などについて

明星学園中学校では、多くの教科が年間の授業内容や教材を自主編成しています。これは、知識や論理を体系的に理解し、獲得することが大切だと考えているからです。

また中学生の段階では、生徒一人ひとりが、新しい知識や現象に対して、自由に印象を語り合い、その中から発想し、みんなで検証を行って結果を確かめます。こうした方法は、理科や数学の授業をはじめとする多くの場面で実践される授業の特徴です。

そして、美術、音楽、木工芸、体育の表現を中心とした教科の内容の充実ぶりは、開校以来の学園の伝統です。

子どもは学習習慣を身につけて、
しっかりと努力するでしょうか？

授業はオリジナルの教材やプリントを中心として、生徒による主体的な思考を軸に進められます。また、各授業の要点や実験の内容、結果などを明快に記す「ノートづくり」が重要な作業となります。教員はそのノートをチェックし、生徒一人ひとりの理解状況を把握し、返却時に生徒へコメントしたり励ましたりしながら学習への意欲を向上させます。

テストだけに頼らずに、このようなきめ細かな方法によって、一時的な理解に終わらずに本当の勉強へと向かわせます。さらに確かな基礎学力の定着を目指し、ドリル学習や個別指導も行っています。

大学受験に向けた指導はどのようなものですか？

高校1年生からは全生徒を対象に、外部模試を利用した実力テストを、年に数回実施しています。また、学期末には進学講習も実施しています。

高校2年生からは理系・文系・実技系の3コースでの幅広い選択授業をおこなっていることが特徴です。

進路について

多くの生徒は、大学に進学して勉強を続ける希望を持っています。

進路先や興味の方向性は、多岐にわたりますので、明星学園公式ウェブサイトの「進路／進学実績」のページをご参照ください。

武蔵野の自然の中で、自主・自立を育み、
子どもたちを主体的に学びへと向かわせる教育の場。



創立時の生徒(小学1～3年生)と創立者たち

2014年に創立90周年を迎えました。



明星学園は1924年(大正13年)に、赤井米吉を中心とした4人の創立同人(教員)により、『個性尊重・自主自立・自由平等』の教育理念で建学されました。この教育理念の下、明星学園独自の校風を築き上げ、約90年の歴史を刻み、今日に至っています。

大正デモクラシー運動高揚のなかで生まれた自由教育運動は、当時の管理主義的画一教育から子どもたちを解放し、子どもの個性や自主・自立を尊重する教育運動でした。

その代表的教育者の一人、成城小学校の沢柳政太郎に強い影響を受けた創立同人4人の、“武蔵野の自然のなかに子どもたちを解放し、自分達の理想を高く掲げた学校を開設したい”という熱き思いにより、明星学園は誕生しました。そのため、建学の教育理念は、大正自由教育運動を色濃く反映したものでした。

教育による子どもたちの解放をめざし、子どもを一個の人格として育てる人間教育は、創立以来大切に受け継がれています。

小学校開設のとき入学した最上級生の卒業にあわせて、1928年(昭和3年)に中学部(旧制中学校)と女学部(旧制高等女学校)が開設されました。また、中学部・女学部開設に際し、園長赤井米吉の招聘に応え、上田八一郎が部長(校長)となりました。この中学部・女学部が戦後の学制改革で男女共学の中学校と高等学校に改組され、今日あるような学園の体制になりました。

戦中・戦後と幾多の世相の変化のなかで、明星教育も紆余曲折はありますが、その基本理念や初代校長の信条は今日まで一貫して流れ続けています。

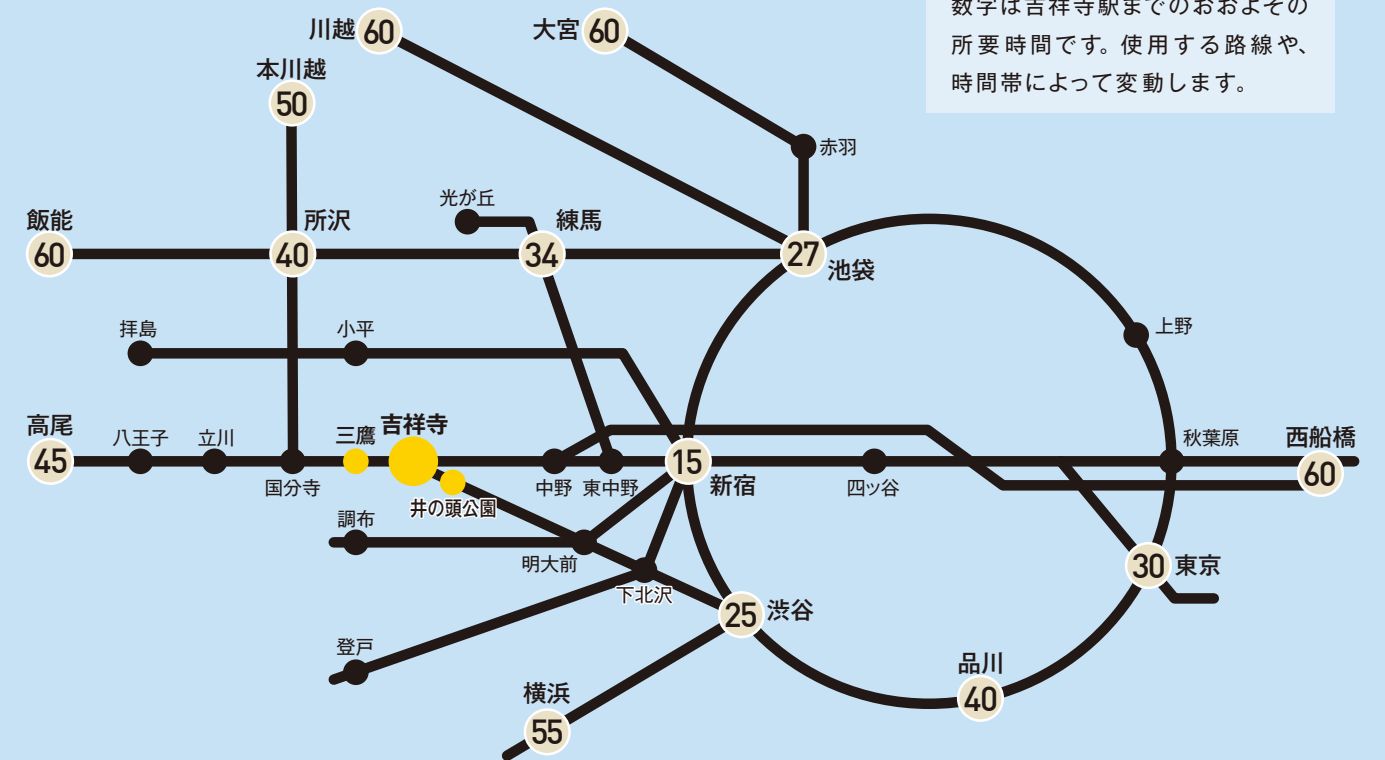


1960年代の高校校舎



1930年代の女学部。中央に座っているのは赤井園長。

最寄り駅への路線図



最寄り駅からの地図

徒歩

JR吉祥寺駅から 約15分

京王井の頭線
井の頭公園駅から 約10分

バス

JR吉祥寺駅公園口、丸井前4番のバス停から「明星学園前」行(小田急バス)に乗車。終点「明星学園前」下車。約15～30分間隔で運行。

約10分

JR三鷹駅南口駅前から「三鷹の森ジブリ美術館経由 明星学園」行に乗車。終点「明星学園前」下車。約30分間隔の運行。

約10分



明星学園中学校・高等学校

2017年5月1日発行

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭5-7-7 TEL 0422-43-2196 FAX 0422-47-6905 ウェブサイト <http://www.myojogakuen.ed.jp/>